



脳卒中は早期発見が大事

◆脳卒中とは

脳卒中とは、脳の血管が詰まったり、破れたりして、脳の機能が損なわれる病気の総称です。脳の血管が詰まる「脳梗塞」、脳の太い血管が破れて脳の表面に出血する「くも膜下出血」、脳の細い血管が破れて脳の内側に出血する「脳出血」の3つのタイプに大きく分けられます。

◇脳梗塞

脳の血管で動脈硬化が進むと血管内腔が狭くなり、そこに血液の塊（血栓）が詰まると、その先の血管へは血液が流れなくなり、このような原因で起こるのが、脳梗塞です。

◇くも膜下出血

脳の表面にある血管の壁が血流の圧力を受け続けることよって「脳動脈瘤」というこぶができることがあります。このこぶが突然

破れて、脳を覆う「くも膜」と脳の間にある空間に血液が広がるのが、くも膜下出血です。

◇脳出血

脳の中の細い血管が、長年の高血圧による影響等でもろくなることよって、破れて出血することがあります。これが脳出血です。

脳卒中を発症すると脳の機能が失われ、命に関わる場合もあります。そのため、脳卒中はどのタイプであっても発症したらすぐに治療を受ける必要があります。そこで重要なのは、脳卒中の発症時に現れる症状に早く気付くことです。

◆脳卒中の5つの症状

◇体の片側の麻痺やしびれ

体の左右どちらか片側だけに、腕や脚に力が入らなくなる「運動麻痺」や、物を触った感じが鈍ったり、熱さや冷たさ等がわかりにくくなったりする「感覚障害（し

びれ）」が突然起きることがあります。

◇言葉の症状

ろれつが回らない、言葉が出てこない、相手の言葉が理解できない等の症状が突然起こることがあります。ろれつが回らないのは、口の周りの筋肉や舌、喉等に麻痺があるために起こります。

◇体のバランスに関わる症状

力はあるのに立ち上がろうとしても立てない、フラフラする等、急にバランスがとれなくなり、体をうまく動かせないことがあります。

◇目の症状

急に片側の目の視力が失われたり、物が二重に見えたりすることがあります。また、「左右どちらかの目で見ても視野の半分が欠ける」ということもあります。

◇激しい頭痛

頭痛はさまざまな原因で起こる症状ですが、脳卒中では、今まで経験したことのないほどの激しい頭痛が突然起こることがあります。

これらの症状のうち、激しい頭痛は、くも膜下出血や一部の脳出血に特徴的な症状です。ほかの4

つの症状は、どのタイプの脳卒中でも起こることがあります。

◆後遺症を残さないために

脳梗塞の場合、脳の血管が詰まって血流が流れなくなると、その部分の脳細胞の機能が低下するため、詰まった部位に応じた症状が起きます。しかし、発症から3〜4時間以内なら、多くの脳細胞はまだ完全に死んではいません。この間に治療を受けることができれば、脳の機能を取り戻せる可能性が高くなります。より早く治療を始めることが、命を守り、後遺症をなるべく残さないようにすることにつながるのです。

◆脳梗塞の予防

脳梗塞には動脈硬化が大きく影響します。このため、動脈硬化につながる乱れた生活習慣は、脳梗塞の危険因子になります。「肥満」「高血圧」「糖尿病」「脂質異常症」「喫煙」「大量飲酒」「偏った食事、過食」「運動不足」が危険因子です。生活習慣を改善し、動脈硬化を予防することが重要です。

ふれあい健康センター 保健師